様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	芸術系コース（美術） ／山木　朝彦

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

現在，研究代表者として1件の科研(基盤研究(C))の交付を受けており，このテーマは「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」である。また，研究分担者として，1件の科研(挑戦的萌芽研究)の交付を受けており，このテーマは「ビジュアル・シンキング・ストラテジー(VTS)を援用した新しい日本語教育の試み」である。前者は2012年度が3年目の最終年度であり，美術教育の教育改善に直結する内容である。後者は2年計画の最終年度にあたり，VTSが美術教育分野にて大きな展開の実績を持つ方法論ゆえに参加している。したがって，2013年度に向けて，科研申請を用意するに当たっては，これまでの実績を踏まえて，「美術館と学校との連携に基づくアーティスト参画の鑑賞教育論の開発」など，独自性と実現可能性を共に有するテーマについて吟味・検討する予定である。方法としては，協力をしてくれる美術館と学校(高校を含む)，そしてアーティストの精選を行い，協力体制を構築した上で，具体的な実験と教育計画立案を目指す研究会を立ち上げることを考えている。

2．点検・評価

科研のVTSについての研究は，複数回の定期的に研究会を持ち，大塚国際美術館にて，VTSの実践的授業研究を実施した。その成果は，2012年3月2日に徳島大学東京サテライトオフィスにて公開した。また，その成果報告会の内容や学会発表の内容をふまえ，研究課題名と同じ「ビジュアル・シンキング・ストラテジー（VTS）を援用した新しい日本語教育の試み」（平成23-24年度科学研究費補助金　挑戦的萌芽研究　課題番号23652118 ）という研究成果報告書を2013年年3月31日に徳島大学橋本智研究室より発行した。同様に，私が研究代表者である，テイト・ギャラリーの教育的アプローチにかかわる科研の研究成果報告会を2013年2月17日に国立総合児童センター「こどもの城」の研修室にて実施し，研究内容およびその成果を公開した。この報告会での発表内容と美術科教育学会での毎年の口頭発表の要旨やハンドアウトをまとめた科研成果報告書「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」（平成22-24年度　科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号22530984）を2013年3月31日に鳴門教育大学山木朝彦研究室から発行した。二つの科研の最終年度にあたり，ともに，充実した成果報告書を発行できたことは，きわだった成果であると自己評価するところである。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

芸術系美術コースの大学院には，私立の芸術専門学部と国立大学の教育学部美術専攻の卒業生が共に受験し，入学している。このうち，後者の国立大学教育学部から本学大学院への入学希望者を掘り起こすため，本年度，嘱託講師として学部の集中講義を担当する筑波大学・高知大学・和歌山大学において，授業内容に鳴門教育大学のユニークな授業である教育実践フィールド研究をはじめとして，私自身が実施している授業内容の中心的な部分を積極的に紹介したい。これは各大学で実施する集中講義の内容の充実という目的からも正統なアプローチであると考えている。また，前年度，出身大学である横浜国立大学にて授業を行ったという経緯から，良好な関係が構築できたので，西日本出身の教員志望者に鳴門教育大学のカリキュラムなどを紹介して頂けるよう依頼をする予定である。

2．点検・評価

中間報告にも書いたとおり，他大学の嘱託講師の際には，授業内容に鳴門教育大学のユニークな授業である教育実践フィールド研究をはじめとして，私自身が実施している授業内容の中心的な部分を積極的に紹介した。また，年度初めには予定していなかった大学美術教育学会のシンポジウムへの出席した際にも，本学と大塚国際美術館・鳴門市が協力して進める「地域文化財教育活用プロジェクト」が学生の教育及びボランティア活動の面で有効に機能していることを紹介し，本学の教育機能をアピールした。前者については，今年度，私が嘱託講師として教えた他大学の学部生が本学の美術コースの大学院を受験し，合格し，入学手続きを行った。これについては，たしかな実績を挙げたといえることなので，定員充足への取り組みとしては，きわだった成果であると自己評価している。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

・教員採用試験にとって必要不可欠な教育や美術の基礎的な用語の習得の必要性を講義中に説き，基本的な用語の獲得ができるように，授業中に小テストなどを積極的に行う。
・学生の教員採用試験対策を支援するため，教職関係の科目において試験に出題される内容を焦点化して，丁寧に指導する。
・授業や論文指導を通じて，研究面での大学院生と学部生との交流が捗るよう支援する。
・学部生が集う専修室には，こちらから出向き，教員採用試験対策などについて話を向け，勉学の悩みなどがあればすすんで聴くようにする。
・同様に院生研究室にも毎日，必ず訪れ，研究を促すよう心掛ける。
・学部生・大学院生などを積極的に美術館と学校との連携のプロジェクトにかかわらせるよう努力する。
・インターネットの情報収集の方法や利用のためのリテラシーについて機会あるごとに教える。また，これからの教員として必要な教育機器の利用の仕方やパワーポイントの作成の仕方，著作権の基礎的な知識などを授業中に獲得できるように努め，全体としてICTに強い教員の養成に努める。

2．点検・評価

中間報告にも書いたとおり，教員採用試験にとって必要不可欠な教育や美術の基礎的な用語の習得の必要性を講義中に必ず盛り込むようにしている。また，基本的な用語の獲得ができるように，授業中に小テストなどを積極的に行って，知識の定着を図った。さらに，学生の教員採用試験対策を支援するため，教職関係の科目において試験に出題される内容について丁寧に指導した。上記の箇条書きすべてについて忠実に実行した。とくに，学部生・大学院生などを積極的に美術館と学校との連携のプロジェクトにかかわらせるよう努力した。とくに，インターネットの情報収集の方法や利用のためのリテラシーについて機会あるごとに教えて成果を挙げた。また，これからの教員として必要な教育機器の利用の仕方やパワーポイントの作成の仕方，著作権の基礎的な知識などを授業中に獲得できるように努め，全体としてICTに強い教員の養成ができた。全体として優れた成果を挙げたといえる。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

今年は，科研の(基盤研究(C))「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」と，同じく科研(挑戦的萌芽研究)の「ビジュアル・シンキング・ストラテジー(VTS)を援用した新しい日本語教育の試み」の両者が研究の最終年度となっており，研究成果を出さなくてはならない。したがって，基本的には，これらの研究成果を学会誌に投稿するとともに，学会発表を行い，成果報告書を印刷。発行する予定である。また，成果の公表という観点から，前者の研究に関わるシンポジウムを企画している。このように，本年度の研究は科研のテーマに関わるものが中心となる。また，10月には，中国杭州市にて世界人美教育学会(InSEA後援)で，横浜美術館子どものアトリエなど，日本の美術館と学校の連携について宮脇理氏(first author)とともに口頭発表を行う予定である。また，将来的展望のもとに，アーティストという存在を活かした鑑賞教材開発の研究会を立ち上げる予定である。

2．点検・評価

平成24年度は，科研の(基盤研究(C))「英国テイト・ギャラリーの教育普及活動における学校連携の方法と成果」と，同じく科研(挑戦的萌芽研究)の「ビジュアル・シンキング・ストラテジー(VTS)を援用した新しい日本語教育の試み」の両者が研究の最終年度となっており，研究成果を出さなくてはならなかった。これらの研究成果について，美術科教育学会などにて学会発表を行い，それぞれ，成果報告書を印刷した。(1-1の項目参照)また，成果の公表という観点から，両者ともに研究に関わるシンポジウムを企画し，実施した。(国立総合児童センター「こどもの城」の研修室(2013年2月17日実施)と，徳島大学東京サテライトオフィス(2012年3月2日実施))このように，本年度の研究は科研のテーマに関わるものが中心となり，目標通りの成果を挙げた。また，将来的展望のもとに，アーティストという存在を活かした鑑賞教材開発の枠組みをつくるため，高松市美術館などにて研究上の取材をした。InSEAと中国の大学が共同主催した世界人美教育学会で，国際学会のフォーマットに準拠したプロシーディングを執筆し発表できたことも成果として挙げられる。総合的に振り返り，優れた実績を残したと自己評価している。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

・教育研究評議会評議員として，大学運営の根幹に関わる審議事項について，将来的な見通しについて慎重に照らし合わせながら，建設的な発言に努めたい。
・学術研究推進委員会委員として，大学の研究・教育の向上に関する事柄について，今まで以上に積極的に発言と提言を行う。
・コース内の若手教員との良好な関係を構築し，大学の教育・研究面の改善への提言を上記委員会へ反映するように努める。

2．点検・評価

中間報告に書いたとおり，新規の委員と言うことで不慣れながらも，教育研究評議会評議員として，審議事項について，不明な点を質問すると共に意見を述べた。また，各種委員として，大学の研究・教育の向上に関する事柄について，提言を行っている。特に図書館運営委員会委員として，「わたしの本棚から」など，本学教職員による書評執筆に関わる計画を立案し，インターネットでの公開に漕ぎ着けた。(また，アドホックな役目ながら，大学機関別認証評価のワーキンググループ班長として，とりまとめを行った。Ⅲに詳しく書きます。)全体として，この項目について精力を費やした観がある。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

附属学校との連携
・附属幼稚園，附属小学校・附属中学校の園児・児童生徒が地域の美術館を利用し，実りある鑑賞学習ができるよう，各学校園および美術館と緊密な連絡を取り合い，教育内容が充実するよう，ギャラリートークなどの授業計画作成に協力する。
・附属中学校との連携を強化し，美術担当の教員（小浜氏）と連携しながら，VTS(上記1-1-1参照)をベースにする鑑賞方法の研究を支援する。附属小学校の図画工作科教材開発と研究促進に積極的にかかわる。

社会との連携
美術科教育学会の理事として，美術教育研究の質の向上に努めたい。また，「せとうち美術館ネットワーク」や大塚国際美術館との「地域文化財教育活用プロジェクト」を積極的に推し進めることで，地域の教育力を高め，子どもたちや市民の美術館来館による美術・芸術の活性化と，美術教育理論の社会への応用を図りたい。

2．点検・評価

附属学校との連携
・附属幼稚園，附属小学校・附属中学校の園児・児童生徒が地域の美術館を利用し，実りある鑑賞学習ができるよう，各学校園および美術館と緊密な連絡を取り合い，教育内容が充実するよう，ギャラリートークなどの授業計画作成に協力した。
・附属中学校との連携を強化し，美術担当の教員（小浜氏）と連携しながら，VTS(上記1-1-1参照)をベースにする鑑賞方法の研究を支援する。附属小学校の図画工作科教材開発と研究促進に積極的にかかわった。

社会との連携
美術科教育学会の理事として，美術教育研究の質の向上に努めたい。また，「せとうち美術館ネットワーク」や大塚国際美術館との「地域文化財教育活用プロジェクト」を積極的に推し進めることで，地域の教育力を高め，子どもたちや市民の美術館来館による美術・芸術の活性化と，美術教育理論の社会への応用を図り，成果を挙げた。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

大学機関別認証評価のワーキンググループの班長のひとりとして，学生の受け入れ・学習成果・学生支援など，調査と記述に困難をきわめる箇所を担当し，責任をもって記述の原案をとりまとめた。精力・労力を傾注し，期限までに与えられた仕事を成し遂げているので，貢献度として言えば，Sに該当すると考えている。